

和田幼稚園の運営方針

1. 安全・安心な園づくり
子ども達が楽しく安心して園の生活ができるように日常の安全管理や避難訓練など防犯体制の充実を図り、安全で安心な園づくりを推進する
2. 幼児教育の更なる充実
通常の教育のほかに、筆遊びや英語遊び、お茶遊び、運動遊びなどの補育を導入して教育の更なる充実を図る
3. 人格形成の基礎づくり
義務教育の基礎を培うと共に、挨拶や礼儀・作法など基本的な生活習慣が身につくように指導し、人格形成の基礎づくりを推進する

和田幼稚園の教育目標

1. 「あかるく、たくましく、考える創造性豊かな子」を育むことを目標に、一人一人の関わりを大切にする
2. 自然を営む環境の中で、多様な経験や体験を通して、心身とも成長、発達を促す
3. 正しい生活習慣を身につけ、人間形成の基礎を培うことを目標とする

本年度の重点目標	「よく学び よく遊び よく関わる」 子どもたちが自分で考え、工夫し、学んでいく環境づくり(人的環境、保育環境)(時間、空間、人間) 人的環境、保育環境の外的環境の見直し、年間指導計画等の内的環境の見直しと積み重ね
経営の重点	職員が働きがいのある職場づくり(カリキュラムマネジメントによるPDCA) 保育の質の向上(指導力、子ども理解の向上、マネジメント力、リーダーシップ力) 保護者が子ども理解、幼稚園への理解を深めていく(HP等による情報提供、子育て支援(講演)等)
教育の重点	年間指導計画、週案の作成(新幼稚園教育要領、新保育所保育指針参照) 教育要領に沿った「遊び」の時間 特別支援教育

評価項目

項目	内容(取り組み)	評価	理由
1. 学園の将来ビジョン	本園の目指す方向を確認しながら保育を進めていく。各学年のリーダーを中心に、指導計画や記録の作成に際して、常に本園の保育の原点(あかるく、たくましく、かんがえる)を確認し合う。 (具体的な目標や取組) ●和田幼稚園 幼稚園経営要綱の作成 ●年度初に全職員での研修を行い、園の理念の確認を実施する ●「環境」について研修 ●HPで園の特色・ビジョンを説明(入園予定・在園児)	C	年度初の研修で「主体性」をテーマに研修をするが、各職員に心に響く部分は少なかったように感じる。外発的な関わりではなく、保育者が自ら関わり、思考錯誤しながら、学んでいく必要性を感じる。令和2年度は主任(2人)を置き、保育者同士の話す機会をつくりながら、保育の本質について考える。
2. 教育課程・指導	・年間指導計画の作成(「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の各領域において、「ねらいと内容」を踏まえた活動を行う) ・子どもの発達段階、子どもの理解を踏まえて、年間指導計画、カリキュラムを作成する ・10の姿を意識した指導要録、保育計画を作成 ・防災意識を高める保育 ・食育を高める ・遊びの時間を確保する (具体的な目標や取組) ●年間指導計画、月間指導計画をもとに、週日案をたてる ●週日案の充実(環境構成、保育者の援助、振り返り) ●10の姿を意識した指導要録 ●食育会議を学期ごとに実施し、調理師・保育士・栄養士と連携していく ●朝の会(全体)を週1回にし、遊びの時間を保障する ●環境を通した教育、遊びを通した教育(講師研修・園内研修)	C	子どもの声を大切にしながら(子どもの主体性)、教育保育要領の理解、10の姿について考える機会をもち、保育者同士学び合うことが必要。日々の保育を振り返りながら、子どもの育ちを多角的にとらえる視点をもつことが必要である。令和2年度は、さらに環境を通した教育、遊びを通した教育、「遊び」とは、学びを深めていく。
3. 保健管理	・感染症については、保護者に情報展開し、疾病予防や拡大防止に努める (具体的な目標や取組) ●携帯アプリで、本日の感染症情報を確認できるようにする ●意見書と登園届(保護者記入)を作成する ●内科検診の年2回(5月・11月)実施 ●健康集会で、手洗い・うがいについて啓発を行う	A	保護者に感染症の状況をアプリを通して情報展開し、感染症について協力し予防に努める。内科検診を2回実施し、子どもたちの成長を嘱託医の先生とともに確認することで、保育者、保護者とともに定期的に連携をとることができた。
4. 安全管理	・安全点検を管理者と職員で実施 ・避難訓練について定期的に実施し、職員・園児の防災意識を高める ・危機管理マニュアルの作成し、職員と共有する (具体的な目標や取組) ●危機管理マニュアル作成 事故時の対応 ●避難訓練実施計画 ●防災教室・防犯教室・交通安全教室 ●安全点検(園外・園内)を実施 ●事故報告書の作成 ●避難靴(外靴)を用意し、テラスからの避難時に使用する ●各学年さすまた購入(次年度研修予定)	B	危機管理マニュアルを作成し、職員に通知する。また、事故時の対応においては、「幼稚園で起こった事故については幼稚園で責任をもつ」ことを確認し合う。ヒヤリハット事例がある場合は、職員で共有し合い、再発防止に努めている。令和2年度は、ヒヤリハット委員会を立ち上げ、職員間で協力しながら、安全安心を計っていく。避難訓練についても、職員が中心になって、防災について子どもたちと学んでいく機会を作っていく必要がある。

5. 特別支援教育	<p>特別支援教育への理解と実践</p> <p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●特別支援コーディネーターを指名する ●篠栗町の巡回相談・粕屋町巡回相談 ●専門リーダー(障害児教育)による園内研修 	B	<p>幼稚園での特別支援の研修やキャリアアップ研修での積み上げにより、徐々に特別支援の理解と実践が進んでいる。特別支援への理解と実践を進めていく必要がある。同時に、保護者による理解を進めていく必要がある。保護者に向けての研修を2020年度は実施する。</p>
6. 組織運営	<p>園の組織運営の機能化 職員間の情報共有の円滑化 職員が主体的に保育実践できる環境づくり</p> <p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●職員会議月1回 ●3号認定の年齢を1歳6ヶ月から1歳に変更 ●園務分掌によりマネジメント力を高める ●満3歳児クラスの開設 	C	<p>職員会議を月1回実施するが、連絡事項や行事の運営についての会議に偏り、保育実践や子ども理解の園内研修の充実が今後の課題になる。2020年度は、主任保育士、主幹教諭を配置し、保育の質向上、人材育成を重点的に実施していく。</p>
7. 人材育成 研修・研究	<p>研修等に積極的に参加し、自己研鑽をし保育の質を上げる 園内研修により、情報の共有、子どもの様子、環境構成を考えていく</p> <p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●キャリアアップ研修 ●専門リーダーを置き、園内研修を担当してもらう ●園内研修の充実 	B	<p>キャリアアップ研修(前期・後期9名参加)。園内研修において、キャリアアップ研修内容をレポート、報告し、職員間で情報を共有する。次年度は教育保育要領の理解を深める研究会、保育実践を通して公開保育(園内)を実施し、保育の質向上を計っていく。</p>
8. 教育目標学校評価	<p>保護者の意見・要望</p> <p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●行事後にアンケート実施 ●学校評価・自己評価(3月) ●教育目標の見直し 	B	<p>行事後に保護者アンケート、年度末に保護者アンケートを実施する。子どもの育ちを感じる、保護者との連携、各項目で前年度と比較すると、保護者からの評価が上がっている。職員と保護者との日頃からの信頼関係によるところが大きい。次年度は日々の子どもの姿、成長がよりよく保護者に伝わり、子どもの成長を保護者とともに分かち合うように努める。また、自己評価(職員)を行い、保育について見つめ直しを行う。教育保育要領の理解、保育の本質の理解を中長期的に園内研修を通して行っていく。</p>
9. 情報提供	<p>情報発信(バスキャッチにより、欠席出席連絡等で、保護者からの連絡を一斉管理) ホームページ、連絡メールにて情報発信を行う</p> <p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●携帯アプリでの保護者への連絡(行事、緊急) ●一ヶ月に一度担任からクラスだより ●ホームページで行事の子どもの姿を発信 	B	<p>バスキャッチにより、保護者からの出欠連絡事項の確認、職員同士の保育の振り返り(毎日の評価)を共有する。写真を用いて、クラスだよりで子どもの様子を伝え、ホームページを使い、保護者や入園希望の方にも幼稚園を理解することにもつながっている。次年度、子どもの育ちを主任を通して、保護者に伝える機会を増やす。</p>
10. 保護者・地域との連	<p>園の行事等へ多くの保護者の皆様の参画を計画。保護者、保育者が共に協力し合って園児の健やかな成長を保障する</p> <p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域の方と一緒に昔遊びをする ●園の行事等への保護者参加(保育参観、運動会、発表会、お別れ会、卒園式(年長児)) ●地域の方との交流する場をもつ(敬老会、和田区民祭など) 	C	<p>地域の方と一緒に昔遊びをする機会をもち、保護者に園の行事等への参加(保育参観、運動会、発表会、卒園式(年長児))を行う。新型コロナウイルスにより、お別れ遠足やお別れ会を実施することができなかった。次年度は、地域の方との交流する場をもつ(敬老会、和田区民祭など)</p>
11. 子育て支援	<p>子育てについての講話を計画</p> <p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●子育ての講話(8月末) ●個人面談等による保護者とのコミュニケーション 	C	<p>NPO法人 子どもとメディア 事務局長 黒田加奈子先生をお迎えして早寝早起き朝ごはんの話や親子でしっかりと関わり合える大切さ等、子どもたちの取り巻く社会環境や子育てについて話をさせていただきました。園にも来ていただいているお話会の一柳先生による子どもと絵本についての話。年齢に応じた絵本の話や子育ての話など。今だからこそ、絵本の力について話をさせていただきました。</p>
12. 預り保育	<p>保育園児・幼稚園児の人数の増加に伴う預り保育環境の見直し</p> <p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●長期間中の預かり保育の保育環境の見直し(長期間中保育園児・超過保育園児を遊戯室でともに保育する(2018年度)) ●幼稚園園舎で保育園児・超過保育園児を分けて保育環境を整える 	B	<p>保育園児と幼稚園児を分けることで、子どもたちにとって十分な空間を確保することができた。預かり保育担当の先生との連携、保育園児の年長児の昼寝等の課題に取り組んでいく。次年度は4・5歳児棟(保育園児・超過保育児)、1・2・3歳児棟(3歳児)という環境にし、個や集団に合わせて保育をする。ビデオ鑑賞等を中止し、教育・保育活動ができるように保育していく。</p>
13. 教育環境整備	<p>保育室の環境や園外環境を見直す</p> <p>(具体的な目標や取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●園児が集中できる環境を(年少クラス)(すりガラス等) ●園庭のデザイン(子どもたちがチャレンジする園庭、四季を感じる、遊びが広がる) 	C	<p>次年度、保育室の環境や園外環境を見直す。保育室を人/1.98㎡とり、子どもの動線を考慮しながら、保育室の環境づくりができるようにしていく。園庭についても、職員と考えながら、子どもの環境を整えていく。</p>

14. 小学校との連携	<p>教育及び保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながるようにする</p> <p>(具体的な目標や取組) ●小学校との交流会</p>	C	<p>幼小の接続について、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有する。幼児期の育ちを小学校にしっかり伝えることが大切になっている。指導要録を小学校に送付したり、小学校と連携を深めていく手立てを考えたい。</p>
15. 無償化対策	<p>10月からの保育料無償化に向けて、保護者への説明を行う</p> <p>(具体的な目標や取組) ●7月中旬に職員に説明 ●7月末に在園児に向けて無償化の説明会を実施 ●給食費の金額、新2号認定の説明等 ●新入園児に向けて無償化の説明会を実施 ●認定こども園運営規定の改正</p>	B	<p>7月中旬から園の職員、保護者に順に説明を行う。国の政策のため、保護者の方が耳にする機会が多く、「無償化」への理解は高かったように感じる。詳細については、無償、実費徴収部分、新2号認定の説明をするが、新2号認定の理解はなかなか保護者にとって難しかったように感じる。新2号認定の理解、1号認定の共働き世帯への対応を今後の課題とする。</p>
16. 職員のメンタルケア	<p>職員の困り感に寄り添い、働きがいがある職場づくり</p> <p>(具体的な目標や取組) ●7月・8月の長期期間中にヒアリングを実施 ●学期ごとの親睦会</p>	B	<p>7月・8月にヒアリングし、就労状況、来年度の去就、困り感を職員と1対1で話す機会をもつ。就労状況や家庭環境等を聞くことで、来年度の勤務においても配慮することができた部分がある。次年度も実施し、少しでも働きがいがある職場づくりに取り組んでいきたい。</p>
17. 食育の推進	<p>食育活動を通して、食に興味・関心をもち、命の大切さ、食の大切さに気付いたり、食事のマナーを身につける</p> <p>●年間食育計画の作成 ●栄養士による食育活動 ●幼児食のしおり作成 ●調理師、栄養士、保育者による食育会議(学期初)(アレルギー児、アレルギー食の対応)</p>	B	<p>食育活動を年間を通して、計画的に実施した。栄養士、調理師の先生たちと食育活動をすることで、食を作る人と食を通してつながりを持ち、食への関心が広がった。学期ごとに振り返り、アレルギー児の確認、ヒヤリハット事例の共有、アレルギー児の対応、各年齢による食事の量、食べやすさ等の意見交換を実施し、子どもの食への興味・関心を引き出すための工夫を職員間で試行錯誤し、実施した。次年度も引き続き、食育活動の推進をしていく。</p>
18. 働き方改革	<p>勤務時間、有給休暇、働きがいやりがもてる職場環境をつくる</p> <p>(具体的な目標や取組) ●土曜日の休日を24日(30年度)から28日(31年度)に増やす ●有給休暇消化率を上げる(最低5日) ●ICTを使い、出勤の打刻をする ●遅出の職員を1名にし、勤務時間の変更する</p>	B	<p>育児中の職員が多く、子どもの行事の時に有給休暇を積極的に利用されている。次年度は休憩時間の確保、職員の就労環境(家に持ち帰り仕事等)を確認し、改善点を探す。</p>

総合評価	理由
B	<p>2019年度は遊びの質、保育者のねらいをもちながら、遊びの量と質を上げていく環境づくりを目指した。みんなで行う朝の会の機会を減らし、子どもたちが遊び込む時間の確保を行った。遊びが広がったり、子どもたちから様々な遊びが生み出されていた。保育者の計画が優先される保育が行われたり、子どもの姿が見えなかった場面もあった。次年度は職員間の共通理解(教育保育要領の理解)を深め、子どもたちの「やってみたい」という興味・関心から、遊びが広がっていくことを大切にしながら保育していく。知識技能の基礎、表現力、判断力、思考力の基礎、学びに向かう力、人間性等をポイントに置き、遊びを通して環境を通して保育実践していく。「表現」「環境」の領域においては、表現、環境への理解、「気づく、考える、深める」等を保育実践を通して理解していく。</p> <p>地域社会・保護者との連携、子育て支援、特別支援教育、教育環境整備(園庭)、園舎増築などを検討していたが、次年度も継続していく。</p>